

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目別 (時間)	1、職務の理解 (6時間)		
到達目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
項目名	時間数		学 習 内 容
	通信	通学	
(1) 多様なサービスの理解		3,0	介護保険サービス (居宅、施設)、介護保険外サービスについてテキスト (介護労働安定センター発行) を中心に講義を行い理解します。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場理解		3,0	居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容を理解し、居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的にイメージが出来るようになり、ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ、他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携を理解する。
科目別 (時間)	2、介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)		
到達目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。		
項目名	時間数		学 習 内 容
	通信	通学	
(1) 人権と尊厳に支える介護①		3,0	利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職として、知識・技術の基本的理念である個人の人権・尊厳について理解します。
(1) 人権と尊厳に支える介護②		3,0	QOL (生活の質)、ノーマライゼーションの理念の理解と虐待防止・身体拘束等の知識・対応方法を理解します。
(2) 自立に向けた介護		3,0	利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防・重度化防止という視点からケアの違いを理解します。
科目別 (時間)	3、介護の基本 (6時間)		
到達目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものや介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事が出来る。		
項目名	時間数		学 習 内 容
	通信	通学	

(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		1,5	介護職の役割、専門性と多職種との連携について学びます。
(2) 介護職の職業倫理		1,5	専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重について理解します。
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		1,5	【講義・演習】介護における安全の確保、事故予防、安全対策、感染対策を学びます。
(4) 介護職の安全		1,5	【講義・演習】高齢者介護で日常的に遭遇する感染症の基礎知識、介護職自身が心身ともに健康であることの重要性について学びます。
科目別（時間）	4、介護福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
到達目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務についてその概要のポイントを列挙できる。		
項目名	時間数		学 習 内 容
	通信	通学	
(1) 介護保険制度		3,0	介護保険制度創設の背景及び目的、動向、仕組みの基礎的理解、制度を支える財源、組織・団体の機能と役割について学ぶ。
(2) 障害者自立支援制度及びその他制度		3,0	障害者福祉制度の理念、障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解、個人の権利を守る制度の概要を学ぶ。
(3) 医療との連携とリハビリテーション		3,0	【講義・演習】医療行為、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念を学ぶ。
科目別（時間）	5、介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
到達目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。		
項目名	時間数		学 習 内 容
	通信	通学	

(1) 介護におけるコミュニケーション		3,0	【講義・演習】介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割、コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション、利用者・家族とのコミュニケーションの実際、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際を学びます。
(2) 介護におけるチームコミュニケーション		3,0	【講義・演習】記録における情報の共有化、報告、コミュニケーションを促す環境を理解します。
科目別（時間）	6、老化の理解（6時間）		
到達目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。		
項目名	時間数		学 習 内 容
	通信	通学	
(1) 老化を伴うところからの変化と日常		3,0	老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴、老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響を学びます。
(2) 高齢者と健康		3,0	高齢者の疾病と生活上の留意点や高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点を学びます。
科目別（時間）	7、認知症の理解（6時間）		
到達目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。		
項目名	時間数		学 習 内 容
		通学	
(1) 認知症を取り巻く状況		1,5	認知症ケアの理念を学びます。
(2) 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理		1,5	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理を理解します。
(3) 認知症に伴うところからの変化と日常生活		1,5	認知症の人の生活障害、心理・行動特徴、認知症利用者への対応を学びます。
(4) 家族への支援		1,5	認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）について学びます。
科目別（時間）	8、障害の理解（3時間）		
到達目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。		

項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 障害の基礎的理解 (2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動特徴、かかわり支援等の基礎的理解 (3) 家族への心理、かかわり支援の理解		1	障害の概念とICF、障害者福祉の基本理念を学びます。
		1	身体障害、知的障害、精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）について学びます。（講義・演習）
		1	家族への支援について学びます。
科目別（時間）	9、こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。 		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 介護の基本的な考え方		2,0	理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護を学びます。
		2,0	介護実践に必要な基本的知識、技術、介護の流れを学びます。
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解		3,0	学習と記憶の基礎的知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響について学びます。
(3) 介護の関するからだのしくみの基礎的理解		2,0	人体の各部位（骨・関節・筋）の名称と動き、ボディメカニクスの活用、こころとからだを一体的に捉える基礎的知識を学びます。
		2,0	中枢神経系、体性神経系、自立神経、内部器官に関する基礎知識を学び、利用者の普段との違いについて学びます。
(4) 生活と家事		3,0	利用者の生活歴、多様な生活習慣、価値観を理解します。
		3,0	家事援助に関する基礎的知識を学び、自立支援、予防的な対応、主体的・能動性を引き出し方を学びます。
(5) 快適な居住環境整備と介護		6,0	高齢者、障害者の快適な居住環境に関する基礎知識、介護保険による住宅改修、福祉用具貸与の留意点と支援方法について学びます。（講義・演習）

(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3,0	【講義・演習】利用者の習慣、好みに合わせ整容に関する基礎知識を学びます。
	3,0	【講義・演習】着脱、身支度、洗面の意義、効果に関する支援技術について学びます。
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3,0	【講義・演習】移乗・移動に関する基礎知識と用具する活用方法、負担の少ない支援方法について学びます。
	3,0	【講義・演習】移乗・移動を阻害するところとからだの要因と理解、社会参加留意点について学びます。
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3,0	【講義・演習】食事に関連した基礎知識、環境の整備、用具と食器の活用方法と食事形態とからだのしくみについて学びます。
	3,0	【講義・演習】楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、社会参加の留意点と支援について学びます。
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3,0	【講義・演習】入浴、清潔保持に関連した基礎知識、用具の活用方法について学びます。
	3,0	【講義・演習】楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学びます。
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5,0	【講義・演習】排泄に関する基礎知識、環境整備と用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学びます。
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3,0	【講義・演習】睡眠に関する基礎知識、環境と用具の活用方法について学びます。
	3,0	【講義・演習】快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学びます。
(12) 死にゆく人の関連したところとからだのしくみと終末期介護	5,0	終末期に関する基礎知識、生から死への過程と理解、苦痛の少ない死への支援方法について学びます。
(13) 介護過程の基礎的理解	3,0	介護過程の目的、意義、展開（アセスメント、介護計画の作成、介護の実施、評価）について学びます。
	3,0	介護過程のチームアプローチについて学びます。

(14) 総合生活支援技術演習		3,0	【講義・演習】介護事例による生活場面、利用者の想定を一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得について学びます。
		3,0	【講義・演習】利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得について学びます。
科目別（時間）	10、振り返り（4時間）		
到達目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再認識を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 振り返り		3,0	【講義・演習】研修と通じて学んだを振り返り、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って業務における基本的態度を持って介護を行える理解を促し、今後受講者一人ひとりが継続して学ぶべきことを講義にて再確認します。
(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修		1,0	研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを具体的にイメージできるような事業所における事例（OJT, Off-JT）を紹介します。